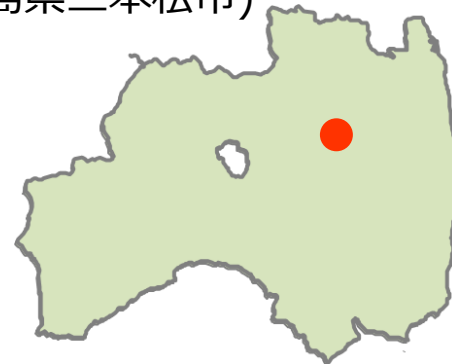


垂直設置型太陽光発電での営農との両立

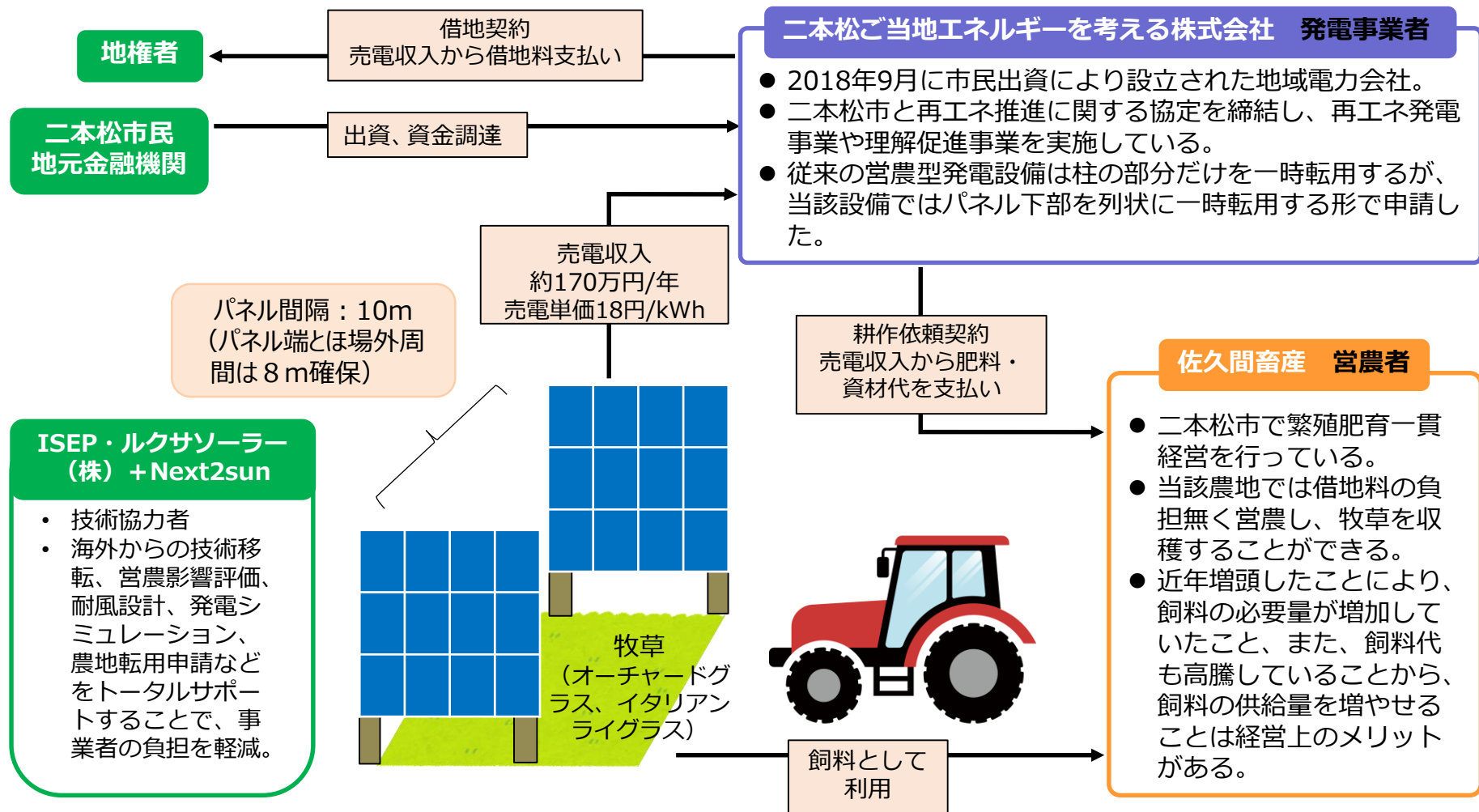
<概要>

- 事業実施主体：二本松ご当地エネルギーをみんなで考える株式会社（福島県二本松市）
- 発電設備：営農型太陽光発電
- 発電出力：96.6kW
- 年間発電量：約87,000kWh
- 発電設備下部の農地：40a（牧草を栽培）
- 建設費：1,590万円
- 運転開始時期：令和4年3月



←発電施設の外観

- 日本では初めてとなる垂直設置型の太陽光発電設備による営農型太陽光発電の取組。
- 発電事業は、二本松ご当地エネルギーをみんなで考える株式会社が実施。設備周辺での営農は、佐久間畜産が実施。
- 垂直設置型の太陽光発電は、東西に設置することで、電力市場価格の高い時間帯（朝・夕方の時間帯）に発電のピークをずらすことができるため、電力を優位に販売することができるとされている。（今回の発電設備は、地形の制約から南北向きに設置している。）
- 今後の展望としては、今回設置した土地に隣接する耕作放棄地にも同様の発電設備を設置する予定。（東西向きに設置し、朝と夕方の2回に発電ピークが来るようにしたい。）



- 荒廃農地を牧草地に再生。海外研究事例を参照し、生育に影響が出ない8～10mの隔離でパネルを設置。（大型機械を使用するため余裕を持った間隔が必要。）
- 営農1年目では、6月下旬に1番草15ロール、8月下旬に2番草8ロールを収穫した。品質はいずれも良好。
- 架台の支柱を通常天井にパネルを設置するタイプより深く埋設し、風速34m/sまで耐えられる設計にしている。（日本の建築基準法の風速基準並。）
- 太陽光パネルは両面モジュールを採用。地面、農作物、積雪の反射光でも発電できるようになっている。